

24/6/26（水）名古屋市議会本会議（横井市議 部活動、名古屋城関係部分）
名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

横井利明（自民）：次に小学校における新たな運動、文化活動と今後の部活動のあり方について、お尋ねいたします。

名古屋市では、従来、教員が行っていた小学校の部活動に代わって、民間の運営事業者が実施する小学校における新たな運動文化活動が令和 2 年 9 月から順次始まりました。

軟式野球やサッカー、バスケットボール、そして音楽などの活動メニューから、子どもたち自身が最大 3 種目選び、1 年を通して楽しみながら体験していくことを目的としています。さて本年 4 月から、南区を始め各地区の小学校の部活動で、今年新たに指導委託された、技研サービスの部活動この事業が始まった 4 月より、「指導者が来ない。指導者が子どもを残して途中で帰ってしまった。見ているだけで何もしない。保護者を怒鳴りつける。器楽のできない人が指導者に来た。指導者が来ないので、やむを得ず学校の先生が指導して、指導者が来ないので、コールセンターに電話したが全く繋がらない。」などの苦情が、教育委員会に 130 件も殺到いたしております。

また、私のところにも、区内の保護者から、連日のように意見やお叱りをいただいている他、意見サービスのスタッフからも相談をいただいております。スタッフによると、研修を行わないまま、指導者を送っている。当日になっても、指導者が決まらないことが多々ある内部のスタッフからもいただいております。

そもそも、部活動の民間委託は、教員の過剰労働教員の働き方改革に端を発しています。学校の先生というのは、例えば午前 7 時半頃に出勤し部活動を終えた後、学校で 8 時、9 時まで教材研究を行うといった労働環境これは確かに異常であり、一方で、保護者から見ると、教員が実施する部活動への安心感一人一人の児童生徒に対するきめ細かい指導。

万が一の事故対応など教員の善意の上に成り立っていた仕組みは、確かに問題であったろうとは思いますが、保護者からも社会からも、高い評価を受けていたのも事実です。

しかし、令和 2 年を境に、一気に従来の部活動と、委託を受けた民間業者の間で、部活動に関する引き継ぎが全く行われないうまま、引継ぎを行ったことが、こうした混乱に繋がったと思われる。

なぜ、部活動に当たっていた教員と民間事業者の間で、共同運営を実施するなど、ともに子どもの指導にあたるなど移行期間設けるなど従来行っていた部活動のいい伝統や経験や経験ノウハウを民間に繋げることができなかつたのか。

つまり、民間事業者を育成するといった視点をなぜ教育委員会は持つことができなかつたのか。

乱暴とも言える教育委員会の対応には、不信を抱く市民の方は決して少なくないと思います。また、学校では野球からサッカーバスケ器楽や合唱など、6 種目の活動が展開されています。

市内を2ブロックに分けて委託したとしても1社あたり、6種類の教室掛ける130校合わせて、7,800事業を受託するこれではなかなか事業者が手を上げるのは困難だろうと思います。

なぜこのような乱暴ともいえるようなやり方で、委託を考えたのか理解できません。

子どもにとって、スポーツや文化などの活動は、夢であり、希望でもあります。

絶対に子どもたちの夢を壊すことがあってはならず、何でもいいから子どもたちを遊ばせておけばいいと。というような安易な部活動のやり方は、長年にわたって、部活動に取り組んできた教員の皆さんにも大変失礼だと思えます。

今後、暑い夏を迎え、子どもたちの健康管理、とりわけ熱中症対策への対応も欠かすことはできません。

研修を受けないまま、スタッフが派遣されている現状を鑑み、大きな事故がいつかは起こるのではないかと大変懸念しております。

また、民間事業者に関する苦情が絶えない中まずはこの混乱にいかに対応するのか、そして今回の混乱の原因はどこにあるのかこのままの形で、民間事業者に委託を続けるのかまさかないとは思いますが、中学校の部活動にも、同様の方法で、民間委託を行う可能性はあるのかなど、教育長には、また、ドラゴンズやグランパス、ドルフィンズなどのトップチームは、知育健康保険事業の一環で、スクール事業というのを展開しています。

こういったプロチームは、地域にいる小学校や中学校、幼児の方々を対象にして子どもたちの体力の向上、居場所づくり、スポーツの振興及び普及を地域づくりに取り組んでいます。これら既存のスクール事業と連携し指導者やスポーツクラブの育成を行うなど、資源の活用に取り組む中で、小学校における新たな運動、文化活動の今後の部活動の一つのあり方として、展開できるのではないかとと思いますがいかがでしょうか。教育長にお尋ねいたします。

最後に、名古屋城天守閣の活用についてお尋ねいたします。

名古屋城天守閣が、建造物の耐震性の問題を理由に閉館してから、先月で、6年が経過がしました。

当時は、2022年には、新しい天守閣が完成すれば、再び市民の皆様が入館できると閉館を前向きに捉えた方も多かったのではないかと思います。

しかし、2024年を迎えた今日も木造天守の完成どころか、石垣の保全方法や、木造天守の基礎構造バリアフリーの方策等を巡って、大幅に遅れに遅れ天守閣の解体もままならない状況にあり、今もなお、着工に向けた道筋すらつけられない示せない状況にあります。

また、昨年には、名古屋城天守閣バリアフリーに関する市民討論会での障害者に対する差別発言とも重なり、今後の道筋は全く見えない中、来場者から、名古屋城のスタッフに対してなぜ天守閣に入れなのか天守閣に入れるのを楽しみに来たのに、がっかりの声などが多数寄せられておると伺っております。

さて、国土交通省が、令和6年5月に公表したコロナ前とコロナ後の外国人の延宿泊者数これを公表しております。

名古屋と、他都市を比べたいと思います。

東京都は、コロナ前に比べ、外国人の宿泊者数が、93.5%増加、倍増です。

横浜市を含む神奈川県は、54.3%増加。京都府は 44.4%増加。

大阪は 28.1%広島は 70.7%、福岡県は 36.9%増加しています。

まさに今、円安の効果があって、日本中で、外国人によるインバウンド需要が、急増している中、名古屋市を含む愛知県はなんと、3.6%減少と、まさに日本国内で、一人負けの状態となっており、そして、セントレアの利用者数も、他の旅客は増えてるにもかかわらずセントレアでは、減少したままとなっており航空事業も、愛知名古屋は非常に厳しい状況となっています。

さて私は、先般、名古屋城天守閣内部の視察調査をいたしました。

内部は電気も通っており、維持管理も、適切に行われていることがわかりました。

また、天守閣1階から外部エレベーターと天守を繋ぐ渡り廊下にたつとなんとそのスポットは、本丸御殿の全景をみることができただ一つのスポットであることがわかりました。まさにインスタ映えする箇所であります。

そこでお尋ねいたします。

当初は、ここまで閉館期間が長くなるとは所管局である観光文化局さんも、全く予想だにしていなかったとおもいますが、現状を冷静に分析すると、閉館期間は、さらに、長期化する可能性があると言わざるを得ません。

名古屋ナンバーワンの観光施設である名古屋城天守閣が、長期にわたって閉館したままというのは、名古屋の観光施策のイメージダウンに繋がるばかりでなく名古屋城天守閣は、外から見るだけのものであって、中に入ってみるものではない。

こういった誤ったメッセージを観光客にも与えかねないと懸念をしております。

そこで、市民の共有の財産である名古屋城天守閣を建て替えが、始まるまでの間だけでも開館し、国内外からの多くの観光客を呼び込む起爆剤として、また、木造天守復元に向けた気運の醸成のためにも、活用することができないかと願っております。

もちろん IS 値が極めて箇所は、開館プランから除くなどの安全対策は、必要ですし最小限の耐震工事は必要な可能性もありますけど、観光文化交流局としてどのようにお考えかお尋ねいたしたいと思います。

坪田教育長：ご指摘の事業者、指定事業者に対し、活動開始後も再三、代表者役員一方現状にこのため対応策。次に、中学校部活動における民間委託の可能性についてです。中学校につきましては現在休日における部活動の見直しを行っておりますが、現時点では小学校のように民間委託に一括委託するようなことは考えてございません。

次に、トッププロチームとの連携やスポーツクラブなど地域資源の活用についてです。

令和4年10月に国から示された中学校の休日部活動の見直し等に関するガイドラインを踏まえ本市では令和5年度末に地域資源を活用する方針を作成したところです。

佐治観光文化交流局長：観光文化交流局には、名古屋城天守閣の活用についてお尋ねをいただきました。

令和5年度の名古屋城の入場者は来場者は205万9707人でうち外国人の来城者は来城者数は40万人を超え、海外からの来城者数は過去最高を記録いたしました。

現天守閣においては耐震性が著しく低いため地震による建物の倒壊により、人的被害が生じる恐れも高いことから、平成30年5月7日以降、閉館しておりますが、この間、来城者の方からは天守閣に入ることができずがっかりしたという声を聞いているところでございます。

現天守閣を有効活用することについては令和6年度の予算計上を検討したものの、見送ることとしたという経緯がございます。

また、現在、名古屋城バリアフリーに関する市民討論会における差別事案に係る検証委員会におきまして、引き続き検証が行われているところであり、最終報告が提出された後には、市民討論会の差別事案における当局としての総括を行うことを考えておらずは、再発防止策を示した上で、当事者への謝罪を行い、それを受け入れていただくなど、信頼回復に取り組むことが最優先だと認識しております。

天守閣整備事業が再始動するタイミングにおいて、議員ご指摘の通り、現天守閣活用を含め、様々な観点から検討を行い、気運醸成を図っていくことは、意義があると考えております。例えば、現天守閣の外付けエレベーターの通路を活用し木造復元された天守の1階と同じ高さからの眺望を体験することで、来場者には、木造天守の木造復元天守への思いをはせていただくことが考えられます。

さらには、議員ご提案の現天守内部の活用に関しまして来場者の安全性を第1に考え、例えば、大天守1階に入城し、映像やパネル展示などを通じて木造天守復元の理解促進と気運醸成を図るための活用策について様々な観点から検討を深めてまいりたいと考えてございます。

横井利明（自民）：それぞれ答弁をいただきました。ありがとうございました。

名古屋城天守閣の活用については外付けエレベーターの活用、または渡り廊下そして、天守閣1階の活用を検討するというところで理解いたしました。

当初は確かにすぐ解体する勢いでしたので、閉めるということについては、我々もそれ理解したんですけど、これだけ長くなるとは我々も思っておりませんでした。

その中で、このことをどうやって木造天守の気運を高めていくか大事な観点だろうと思っています。

ぜひ早急に開館をしていただいで多くの方々に内部をみる、見ていただくそういったことについて、進めていただければ有難いと思います。

それから、部活動についても申し上げたいと思います。

私も小学校で教員をしておりました。

私、どんなふうにやってたかっていう4月から8月の始めまでは野球の顧問、そして、8月中は、陸上部の顧問そして9月1日からは、サッカー部の顧問になって、1月の大会までやる。

1月のはじめまで終わると、今度はハンドボール部の顧問にになって、またハンドボールを子どもたちに教えていくと。

まさに一年中部活動に取り組むと。

私も含めて私の周りの先生方も授業も楽しかったんだけど生きがいで取り組んでいた先生もいっぱいいたんですよ。

ですから今回の民間委託を聞いて、がっかりされた人たちがいっぱいいました。実は。正直言うといっぱいいました。

ただ全体として働き方改革をしていく中では、やむを得ないということもありました。

ただやり方がやっぱり非常にまずかった。

これだけ素晴らしい教員が作ってきた財産まさにこれ教員の善意や、ボランティア意識や子どもたちへの愛情でやっていた。

部活動が、まさにある日を一瞬にしてパンと切られてしまって、この日からは民間ですと。全くこれ継続していた行かなかったんですね。

ここに私は一番問題点があると思う。

なぜ並行してできなかつたのか。

いい部活動の伝統を、民間にどうやって引き継いでもらうか、なんて考えなかつたのかここが全ての始まりであって、私はね、技研サービスさんだけが悪いと思っていませんよ。

他にそういった教育委員会のすすめ方に問題があつたのではないかなあと思っていますからこの辺りについてはぜひ検証していただいて、次に生かしていただければ有難いと思います。